

# カマイルカ 観光資源に

## むつ市 陸奥湾回遊、研究調査

むつ市は、毎年春から初夏にかけて陸奥湾に回遊してくるカマイルカを研究や教育、観光に生かす事業を始める。早ければ来年1月にも浅虫水族館や地元漁協、県外の大学などと協議会を発足。市の観光遊覧船を利用したドルフィンウォッチングや、保護したカマイルカの生態研究、調査を進める計画だ。(白鳥遼)



春から初夏にかけて陸奥湾に回遊してくるカマイルカ。研究や教育、観光への活用が期待されている(五十嵐健志さん撮影)

## 来年1月にも協議会発足

カマイルカは北太平洋に生息しており、背びれが鎌の形に似ているのが特徴。体長2.5前後まで育つ。陸奥湾には九州方面から餌を追って北上してきているとみられるが、詳しい回遊ルートをはじめ、繁殖や仲間同士のコミュニケーションなど、生態はまだ謎に包まれている。

今回の事業は、自然環境教育などに取り組むNPO法人シェルフォレスト川内(同市川内町)の五十嵐健志理事長が今年5、6月、

浅虫水族館や北海道大、東海大の研究者と共同で生態調査を行ったのがきっかけ。同市脇野沢と佐井村の仏ヶ浦を結ぶ市観光遊覧船のルートに、カマイルカが高い確率で現れることが分かったという。

協議会設立後に、市民向けの講演会を開催する予定。来年度は試験的にドルフィンウォッチングを行うほか、将来的には、誤って定置網にかかったカマイルカを保護し、シェルフォレスト川内が指定管理する

「むつ市海と森ふれあい体験館」の前浜で囲いを作って放す構想もあり、調査や教育、観光に生かしていく。五十嵐理事長は「穏やかな陸奥湾は研究にも適した場所。カマイルカの生態を知るとともに、下北ジオパークとも絡めて地域の良さを再発見し活性化につなげた

い」と期待を込める。市は本年度一般会計補正予算案に事業費250万円を盛り込み、29日開会の定例市議会に提案する。財源は国の地方創生交付金などを充てる。宮下宗一郎市長は「地域の宝であるイルカを子どもへの教育や誘客に活用できれば」と語った。

2016年(平成28年)

11月29日

火曜日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

ニュースはウェブ東奥 検索



サイトはこちら

〒030-0180 青森市第二問屋町3丁目1番89号 © 東奥日報社 2016

